

おたふくかぜで 難聴に ! ?

ワクチンで予防しよう!

おたふくかぜは、流行性耳下腺炎やムンプスとも呼ばれ、ムンプスウイルスの感染で起こる病気です。発症すると唾液腺（耳下腺と顎下腺）が腫れます。さらに、ウイルスが全身に広まり、内耳、すい臓、卵巣、精巣、脳など全身に影響がでてきて、いろいろな合併症を起こすことがあります。

★ おたふくかぜの主な症状は？

- ・ 2～3週間の潜伏期の後に、耳の下（耳下腺）やあごの下（顎下腺）などの唾液腺が腫れます。たいていは左右とも腫れますが、片方だけのこともあります。約1週間で腫れはひきます。
- ・ 熱は普通2～3日で下がりますが、出ない場合もあります。

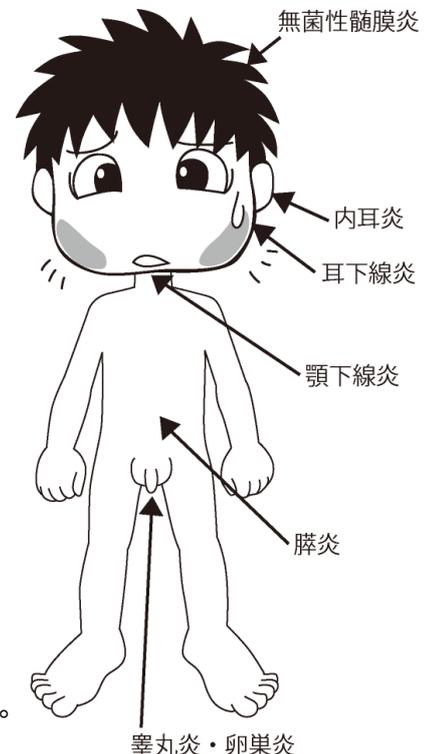
★ 合併症とその症状は？

- ・ 1,000人に1人が重い難聴になり、治りません。多くは片方ですが、両耳が侵されることもあります。年間600名くらい発生していると推測されています。
おたふくかぜにかかったら⇒片方ずつ確認しましょう（ささやき声や携帯電話などを利用）
- ・ 100人に2～5人が無菌性髄膜炎になり、熱と頭痛とおう吐が続きます。
- ・ まれに髄膜脳炎を起こし、脳障害を残したり死亡したりすることがあります。
- ・ そのほかに、すい臓炎、こう丸炎、卵巣炎を起こし、強い痛みを訴えることがあります。

★ 予防にはワクチンが有効です

- ・ 1歳になったら、はしか・風しんワクチンを接種したあと、4週間以上あけておたふくかぜワクチンを受けるとよいでしょう。
- ・ おたふくかぜワクチンは、90%以上の人に免疫がつき、副反応も少なくすぐれたワクチンです。

合併症や副反応	自然感染	ワクチン
耳下腺炎	70%	3%
無菌性髄膜炎	2～5%	0.1～0.01%
ムンプス難聴	0.1%	ほとんどなし
こう丸炎（思春期以降）	25%	ほとんどなし



★ おたふくかぜワクチンで ムンプス難聴 を防ごう!

★ 子どものVPD…どんな意味？

- ・ 「ワクチンで防げる病気」をVPD (Vaccine Preventable Diseases) とよびます。
- ・ ワクチンで防げる病気はわずかです。重大な病気だからこそ、ワクチンが開発されたのです。
- ・ VPDには、確実な治療法はありません。だから、予防が第一です。
- ・ VPDのホームページ「KNOW★VPD！」にアクセスして勉強しよう。
⇒ 「VPD」で検索